

# 30人学級の実施へ 初会合で意見交換

## 岡崎で教育関係者ら

岡崎市教委は二十五日、中根康浩市長の公約にある「市三十人学級実施検討会」の初会合を市役所で開いた。委員長に愛知教育大の土屋武志教授、副委員長に愛知産業大大学院の宇野勇治教授を指名した。

中根市長は会議冒頭で「公約の一つが実現できることを大変うれしく思う」とあいさつ。「国に先んじる形で、三十人という数字を目標に少人数学級実施に取り組んでいく」と話した。安藤直哉教育長は「各

分野のエキスパートである委員の知恵を借りて、開達な意見交換ができればと期待している」と話した。

会議には小中学校長やPTA関係者、保育・幼稚園長ら十二人が出席。「先生が子ども一人当たりに関わる時間が増える」「個別の発達段階に合わせた教育ができる」「教職員の負担軽減につながる」などの意見が出た。一方で「人手不足によって質の高い教員が確保できなければ、むしろ教育面でマイナスになる可能性

少人数学級実現に向けて開かれた「30人学級実施検討会議」―岡崎市役所で



がある」とこの指摘もあった。岡崎市では現在、小学一、二年生と中学一年生で

三十五人学級を実施している。国は二〇二五年度までに、小学六年までを三十五人学級にする方針を示している。

市の試算では、三十人学級を実現すると、小学校で百六十三学級、中学校で七十六学級の増加となる。また、教職員給与の予算は、年間約十五億円以上の増額が必要となる。教職員のなり手不足の中、教職員はもちろん増える教室をどう確保するかも課題となっている。市教委の担当者は「数字は暫定。国や県の補助を活用して予算縮減を図っていく」としている。次回の会議は来年三月に開かれる。

(鎌田旭昇)